

最高の天気で北穂高岳へ

山行日 : 7月31日～8月3日

参加者 : M山N男(L)、Y崎、U田(記)

行程 : 7月31日 松戸市民劇場～ビレッジ安曇野(泊)

8月1日 ビレッジ安曇野～沢渡～上高地～涸沢(テント泊)

8月2日 涸沢～北穂高岳～涸沢(テント泊)

8月3日 涸沢～上高地～沢渡～松戸駅(解散)

長い梅雨が鬱陶しく続いていた7月30日、HPを見ると、北穂高岳への山行が紹介されていた。参加したい旨、連絡すると即座に返事が来た。

7月31日10時にM車で出発、宿泊は「ビレッジ安曇野」に素泊まりだった。空き気味だったようで、2室を使い、1室は宴会専用となった。

8月1日は宿を早朝に出発、沢渡でタクシーに乗り換え、上高地に着いた。上高地のシンボルの河童橋界隈は華やかさと山男・山女たちの意気込みが混じりあう一種独特な雰囲気があった。当日の目的地の涸沢を目指し進んでいくと、徐々に山男・山女の世界に移っていく。私はこのところ、テントを担いでなく、荷の重さが少しずつ負担になってきた。距離は長い。Mさんは余裕でカメラを構えている。屏風岩を見ながら本谷橋あたりに来ると、荷が肩に食い込んで、足が進まない。少し心配をかけてしまったと思う。

ようやく、涸沢ヒュッテの吹き流しが見え、涸沢カールの展望が開けた。テント場でザックを降ろし、しばし休憩をとる。テンバはゴロゴロした岩なので、ボードを借り、テントを設営した。取り巻く山々を見ながら、岩のテーブルで小宴を張る。・・・夜中に空を眺めると、空一杯に星が煌めいていた。寒くもなかったので少しの時間、空を見て過ごした。



8月2日、早朝に涸沢を出発した。登っていくと色とりどりのテントの群れがだんだん小さくなる。朝日に照らされ、穂高の山並みがくっきりと浮かび上がる。使ったことのないヘルメットがぎこちなかったが、すぐに慣れてしまった。急登を喘ぎながら進む。やがて北穂高小屋が見え、山頂に着いた。

素晴らしい展望だった。前方は間近に大きく槍ヶ岳、左に鷲羽岳、水晶岳、薬師岳と続き、さらに左に笠ヶ岳が大きい。槍ヶ岳の右には、大天井岳、常念岳などの表銀座の山並みが連なる。南側には涸沢岳が峻嶒な姿を見せ、奥穂高岳、前穂高岳と続く。



いつまでも、この展望の中で澁んでいた気持ちになった。しばらくして、北穂高小屋のベンチに移り、ここでも、ゆっくりと展望を楽しんだ。

涸沢に戻り、ヒュッテなどで時間を過ごしたりした。ヘリコプターが前穂高岳の近くを長い時間、飛行していた。あとから聞いたが、滑落事故があり、女性が一人、亡くなったとのことだった。

暑さも少し収まってきたので、またテントに戻り、昼寝をして、そのあとテントサイトで食事をしながら歓談した。

8月3日は少しゆっくりと上高地に向け、7時に出発した。天気は少し雲があったが、相変わらず問題ない。山の緑、美しい水の流れ、小鳥のさえずり等を楽しみつつ降りて行った。途中、嘉門次小屋に寄ったりしながら、河童橋を渡り、上高地に着いた。

今こうして、ワープロに向かっていますが、ようやく、体の「きしみ」も収まってきたようです。暑い柏で、爽やかなアルプスでの山行を思い出し、かみしめています。

Mさん、Yさん有難うございました。